

第56回小金井市市民参加推進会議

日時 令和元年5月23日(木) 午後7時00分～午後8時29分

場所 本庁舎 第一会議室

出席委員 10人

委員長 日向信和 委員

副委員長 渡邊大輔 委員

委員 岡田一美 委員 村田 淳 委員

本田哲朗 委員 鴨下明子 委員

森田眞希 委員 中村彰宏 委員

鹿子木将登 委員 天野建司 委員

欠席委員 2人

荒城真美 委員 加藤明彦 委員

事務局職員

企画政策課長 梅原啓太郎

企画政策課主査 東條俊介

企画政策課主任 金原真紀子

傍聴者 0人

(午後7時00分開会)

◎日向委員長 皆さん、こんばんは。それでは、第56回市民参加推進会議を始めさせていただきます。

なお、本日ですが、加藤委員から欠席の連絡が入っております。荒城委員からは連絡は入っておりませんが、欠席の連絡は入っていないので、後から御出席されるものと思います。

定足数につきましては、市民参加条例施行規則第24条に、半数をもって成立することになってございます。12人中10人御出席をいただいておりますので、本推進会議は成立しているということで御報告申し上げます。

初めに、事務局に異動があったということですので、御報告させていただきます。事務局よりお願いいたします。

◎事務局 それでは、4月1日付けで事務局に人事異動がございましたので、御報告をさせていただきます。昇任で主査となりました東條でございます。

◎事務局 引き続き、よろしくお願いたします。

◎事務局 続きまして、齋藤主事が異動となり、係内異動で担当となりました主任の金原でござ

ございます。

◎事務局 金原です。よろしくお願ひいたします。

◎日向委員長 それでは、配付資料について、事務局のほうで確認をお願いします。

◎事務局 今回の資料は事前にメールにて送付をさせていただきまして、本日、机の上に配付をさせていただいております。順に確認をさせていただきます。

まず、本日の次第でございます。A4、1枚でございます。次に、資料1、市民参加条例対象附属機関等設置状況でございます。A3で2枚とじているものでございます。次に、資料2、廃止・終了した審議会等の調査、A4、1枚の資料でございます。また、その裏面に資料3といたしまして、パブリックコメント実施状況調査がございます。それから資料4、意向調査実施状況、A4、1枚の資料になります。それから資料5、第7期小金井市市民参加推進会議提言（案）、こちらはA4、2枚の資料になっております。最後に、お手元に前回第55回の会議録をお配りしております。これは既にホームページにも掲載しているものになります。不足しているものがございましたら、お申し出いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

以上でございます。

◎日向委員長 ありがとうございます。

それでは、次第2、市民参加条例運用状況等について、(1)「市民参加の状況について」を議題といたします。

事務局からの説明をお願いします。

◎事務局 それでは、本日はこの後、今期提言の協議がございますので、簡潔に説明をさせていただきたいと思ひます。資料1「市民参加条例対象附属機関等設置状況」を御覧いただきたいと思ひます。

附属機関等の総数は62機関で、昨年度の59機関より3機関増えております。

また、委員の人数は685人となっております、昨年度の640人より45人増えております。男性委員の割合は68%、女性委員の割合が32%となっております。昨年度より若干男性委員の割合が増えております。昨年度は男性委員が67%、女性委員が33%でございました。

また、30代以下の年齢の方が合計43人、6.3%でございます。昨年度より低い割合となっております。昨年度につきましては49人、約7.7%でございました。

このほか、公募委員を置く機関は36機関でございます。昨年度は35機関でしたので、1機関増えております。

まとめといたしまして、専門性が高く、公募市民を置かない附属機関、例えば新庁舎・（仮称）新福祉会館建設基本設計業務委託事業者選考等委員会、小金井市生活支援事業協議体、こういったものが増えたことによりまして、附属機関の総数は増えておりますが、公募市民の率は減ったという結果になっております。

続きまして、資料2、資料3、資料4につきましては、それぞれ審議会等の廃止・終了の状

況、パブリックコメントの状況、意向調査の状況でございます。こちらにつきましては後ほど御確認いただきたいと思います。

説明は以上でございます。

◎日向委員長 事務局の説明は終わりました。

それでは、今の説明につきまして御意見等がありましたらお願いいたします。

◎森田委員 意見というのは、若い世代の参加を進めるということに絡めての意見でいいんですか。

◎日向委員長 そうですね。幅広くお気づきの点があればお願いいたします。

◎森田委員 先日、添付でお送りいただいて、それを老眼なので大きくしながらよく見つつ、45番の子ども・子育て会議、これは昨年、その前の年、私は委員だったんですけども、これって応募者数が多くて、会議に出ている委員のとき、うんと緊張感があるんです。やっぱり傍聴がすごく多いんですね。多いですし、うっかりしたことを言うとすぐSNSに上げられちゃうという緊張感があって、いつも発言をどもっちゃって、私も。そのぐらいの緊張感ある、かつ、あと応募したんだけど、今回自分はだめだったんだという人たちも傍聴に来ているんです。

そういう人たちも含めた、会議の後の反省会みたいなことがあるんです。もちろん私は委員で、委員に漏れちゃった人が、何であそこでああいうふうにならなかったのとか、そういうことでいろいろ責められたりとかするんです。でも、そのぐらいの緊張感を持って行われる委員会って、今思えばすごくいいなと。そのための予習もしますし、その最中は本当、早くやめたいと思っていたんですが、今思えばいい委員会だったなと思って、これを全体の応募者数等々を見ながらそう思いました。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

ちなみに、子ども・子育て会議というのは何かを決定するための会議だったんですか。

◎森田委員 そうですね。公的な保育園の保育料、ちょうど私が参加していたときって、小金井市の近隣の自治体に比べて小金井市は低かったんですね。それを上げるためにその委員会にかけて、承認をされなければいけないんですけども、我が子に直接かかってくる委員会というところで、子育て中の方々の傍聴も多かったし、そう思いますと、この中で、例えば介護保険ですとか高齢者に関係する委員なんかも、もっと直接自分たちにつながってくる委員会という思いで、多くの方が応募するとか、傍聴するというようになっていけたらいいのになと思いました。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

じゃ、特に御意見ないようですので、以上で次第2(1)「市民参加の状況について」を終了いたします。

次に、次第2(2)「今期の提言に向けて」を議題といたします。第7期市民参加推進会議は、今回を含めて残り2回となります。今回第56回では、委員の皆さんにも事前に御確認い

ただいている提言書の最終確認をいたします。

事務局からの説明をお願いいたします。

◎事務局 それでは、資料5、第7期小金井市市民参加推進会議提言（案）を御覧いただきたいと思います。

前回の資料で配付いたしました「たたき台」をもとに、委員長・副委員長が作成くださいました提言の案を先週メールで送付をさせていただいております。それをお配りしているものでございます。

また、中村委員から、こちらの提言（案）につきまして、修正の御意見をいただいております。軽微な部分を除きまして、今お配りさせていただいておりますこちらの資料にまとめておりますので、こちらについてまず御説明をさせていただきます。

上から順に説明をさせていただきます。まず、資料5でいいますと、1ページの中ほどになりますけれども、2の「これまでの経緯」でございます。これまでの経緯の下から2行目の部分になりますけれども、「『若者の市政参加』をさらに進めるために」というところを「さらに促進するために」という御意見をいただいております。

次は3ページになります。3ページの提言（4）「ワークショップの原則化」でございます。黒丸の2番目になります。「その際」ということで、「質の低いワークショップを行い、市民のワークショップに対する期待を下げることのないよう」という部分をどうかという御意見でございます。

その3行ぐらい下になります。「5年後には主要な計画策定時におけるワークショップの導入を目指す」という部分について、「5年後」を「2年後」に改めてはどうかという御意見でございます。

4ページの一番上の行になります。こちら「『こが☆カフェ』に各委員がオブザーバーとして傍聴し」の部分について、「2名の委員がオブザーバーや参加者として参加し」というふうに改めてはどうかという御意見でございます。

最後になりますが、4ページの下から3行目の部分についてでございます。こちらについて「5年」の部分「2年」に改めることと、「積極的な活用を図るよう提言した」という部分について、「市でもその提言を受け入れ、ワークショップの導入に積極的に取り組みつつある、幅広い領域において、市民や市職員が協働の名のもとに地域課題を共有し」というふうに改めてはどうかという御意見をいただいております。

説明については以上でございます。

◎日向委員長 事務局の説明は終わりました。

まずは先に渡邊副委員長から、このたたき台の修正点のポイントについて御説明をお願いします。

◎渡邊副委員長 委員長と私である程度たたき台というか、案について、前回のコメント等を踏まえてできるだけ手を入れさせていただいて、最終的な形にまずはしております。今日の会

議で皆様から御意見をいただくための案ですので、適宜どんどん御意見をいただければと思います。

では、どこを修正したかについて、簡単に御報告いたします。細かい点は飛ばします。見え消しのものも皆さんにお配りしておりますが、飛ばしますけれども、細かい点も含めて修正はしておりますが、大きい点だけ御報告いたします。

まず一番初め、これ結構大事ですので、「はじめに」のところですが、3行目のところから、「市の政策策定におけるワークショップの積極的な活用について提言をする」という形で、今回の提言は市の政策策定におけるワークショップの活用という形にしております。前回の議論で「政策決定」という言葉もあったんですが、ただ、さすがにここで決定はできませんし、ワークショップも決定するものではありません。あくまで策定プロセスを支援していくものになりますので、「策定」というふうにしております。おそらく契約の決定権は最終的には市長にあるものですので、それも踏まえてです。ただ、政策を考える上での重要な参考として、その策定のプロセスに入れていただきたいというのを含めて、「政策策定」という表現を使っております。これは今後以降も全て同様となっております。

2番目です。提言についてです。3の提言のところは2行目、「特に若者が積極的に市政について討議し、市の政策策定プロセスにできるだけ参加するようになるための広報」という形で、ここも先ほどに合わせると同時に、ここでは「若者」という表現も入れながら、冒頭で「若者の」というふうにもありますので、若者が市政に参加する。そこで特に策定のワークショップという形にしております。

3つ目です。1ページおめくりいただきまして、2ページの(1)「参加しやすく議論しやすいワークショップの運営について」のところとなります。ここは幾つか細かい修正も入っておりますが、1つ目は丸ポチ1つ目のところですが、ここは若干文章を読みやすくするという修正を加えております。内容はそんなに変わっておりませんが、1点重要な部分としては、未経験の人もというよりは経験の有無にかかわらず、経験がある人もない人も参加できるような仕掛けにしたいという形での表現の修正をしております。

次に、これは微修正的なものになりますが、丸ポチ3つ目のところの人数が1グループ5から7名で、実はこれは前回3から6名にしている、これは多分、私が前回作ったときに、1個、「こが☆カフェ」のワークショップは大体1テーブル3から6名くらいだったよなというふうを書いてしまったんですけど、よくよく考えたら1期前のワークショップで5から7くらいだというの、これはちゃんとそれなりに意味のある数字を書いていたのを思い出しまして、事務局からもずれていますがということをお願いして、これは5から7でよかったということに気づきましたので、修正しています。5から7は、一般的にこれくらいの規模がいいと言われる規模ですので、その形になっております。

また、これは前回の議論のコメントで、ファシリテーターって何ですかという非常に大事なコメントがありましたので、ここでは議論を誘発し、発言を促す役割を果たすファシリテータ

一という形で説明を加えております。ファシリテーターを呼びかえるのは難しいので、このようにしております。この表現でわかりやすいかどうかについては、皆様から御意見をいただければと思います。

その次は細かい修正ですので飛ばしまして、その次、5個目、「多様な参加者の確保」のところです。ここにつきましては2行目の「また、異なる他者への想像力をはぐくむとともに日常生活や緊急時につながりを生む機会となる」、これは森田委員からこういうことで参加することによって繋がりが生まれていく、それはいろんなときに使えるものになっていくんだというコメントがありましたので、それを反映させていただく形としております。

あとは青年会議所に小金井をつけるとか、そういった細かい修正をしております。

最後ですけれども、これは若干文章を見やすくしておりますが、「公務員像にとらわれることなく、市民と対話することを最大の目標としてほしい」という形で、読みやすい形に修正しております。

ここまでが(1)の修正となります。

続きまして、(2)です。まず、これはタイトルを修正しております、「広報戦略および参加成果」としております。これは中身が広報だけの話にはなりませんので、参加成果をどうするかということも含め、タイトルを修正しております。

その次の1は細かい文言修正が多いので、読みやすくしたという形です。

2つ目につきましても同じかな。また即時性云々というところもただの文言修正、読みやすくしただけです。

3つ目につきましては当日の様子とかですね。これもたしか森田委員から、ポストイットとか、そういったものの成果とかをやって張っていくのがすごくうれしい。それが写真とかに撮られて、写っていたのがよいというコメント等もありましたので、参加したことによる成果、当日の様子、報告書及び、その後の計画策定などでの反映状況について伝えてくださいということを書いております。これはイメージは、前回の「こが☆カフェ」の報告のホームページがありましたね、あれとかが非常によかったので、ああいうものをしっかり継続していただきたいという意図で書いております。

あとは文章を読みやすくする修正のみです。

ここまでが(2)です。

続きまして、(3)に移ります。丸ポチ1つ目は修正はありません。

2つ目につきましては若干修正を加えておりますが、これは①②③④がたしか3つだったのを、わかりやすくするために④を加えております。中身は実は変わってないんですけど、3つだった項目を4つの項目立てにし、外部団体を利用できるのは運営ノウハウ、それから市の職員の負担感、不安感の軽減、飲食物の提供等の実現、そしてテーマに適した方法を選択でき、多様な運営ができるという、この4つに整理し直したということぐらいですかね。

あとは表現がちょこちょこ変わっています。これも皆さんに御意見いただきたいとしたら、

(3) の一番最後です。「とくに学生団体が主導するワークショップは、挑戦的な運営を行う点」という形で、前回は先進的な運営としたんですが、もう少しおもしろいことをやっているということも含め、かつ若者らしさを考え、「挑戦」という言葉に書きかえておりますが、ここも少し皆さんに御意見いただければと思います。ちょっと前向き感と頑張っている感と、あと学生らしさが出るかなという形から、あえてこういう表現を使わせていただきました。

その次です。(4)「ワークショップの原則化」です。ここは「原則化」という表現がいいのかどうかということも若干事務局とも相談しておりますが、委員会としてはこれはすごく大事なポイントですので、「原則化」という表現をここでは現在使っております。

この1つ目は結構重要ですので、ここは1回読ませてください。「ワークショップは、市民の市政への参加の有効な手段となる。特に計画策定の事前において現状把握や問題関心の共有などに活用しやすいものであり、また、計画案の評価などにおいても有効である。そこで、原則として、市のすべての計画策定において、市民が参加するワークショップの導入を行うことが望ましい」としております。

正直申しまして、本当に全てに持ち込めるのかというのは非常に難しい点があることは、おそらくあると思います。ここではまず大前提として望ましいという形で、絶対にやってほしいとはなかなか言い切れないものもあります。ただし、まず理念として、望ましさは捨てないということを我々の提言として考えています。やるべきである。ただ、全部が全部やれるとは限らないということから、その次以降にある程度留保事項を入れながら、実現可能性をもって提言をしたいというふうに考え、その次になっております。ここは中村委員の御意見もありました。あとは御趣旨も御提示いただければと思いますが、質の低いワークショップ等を行い、期待を下げることはないよう、導入の十分な準備を行ってほしいという点を書いております。

それから、ここは前回、何回も幾つかあったのですが、じゃ、何をするかというと、「ワークショップ導入に向けた検討の場及び研修の機会を設けるとともに、長期総合計画など議論を行いやすい計画策定時に試行的にワークショップを導入し、生きた経験を積むことによって、市と市職員のワークショップを運営する能力を涵養し、5年後には主要な計画策定における導入を目指すことなどにより、積極的な活用の定着を図るよう提言する」。ちょっと長いのですが、ここではまず検討の場、研修の機会をちゃんと設けてください。それから、試行的なワークショップを導入してください。さらに、市と市職員が能力を身につけてもらい、5年後には主要な計画等で導入を目指してほしい。「など」ということが若干ありますのは、それで積極的な活用をしてくださいという形の提言としております。前回のコメントでも年限等はちゃんと導入したほうがいいんじゃないのかという御意見は皆様から幾つかありましたので、ひとまず5としました。ここについてはまた御意見あるかと思っておりますので、御意見いただければと思います。

また前回、鹿子木委員からの御意見でも、市の意識改革という表現をぜひという形で、これをワークショップ原則化の最後に、「また、この目標のためには市の意識改革および職員の能

力育成が重要となる」という形で、「意識改革」という表現をつけ加えております。ただ、私が調べた限りで、小金井市の人材育成方針というのを見つけたのですが、その辺ではあまりこの手のことはまだやってないんです。なので、ちゃんとすぐやってくださいという意図を含めて、育成方針等についてこういうことをやってくださいと。これもやっておかないと、結局職員さんができないことを求めるのはかわいそうですので、できるようになるための条件を整えてくださいということをつけ加えております。

あと、「おわりに」の部分です。「おわりに」の部分に関しまして、こちら辺は文章を読みやすくしたものが中心となります。

1点、加藤委員などのコメントを加えているところは、4ページの上から2段落目、「ワークショップは、市民参加の一手段であると同時に、参加する市民や市職員が地域の課題を共有する仕組みである」と。この「地域課題の共有」という点も非常に重要なキーワードでしたので、この点を加えさせていただいております。

あとに関しましては、これまでの文章と前後の整合をとる形で、細かく文章の修正だけを加えておりますが、前回から大きい修正を加えているものではございません。

最後の「本委員会は」というところは、先ほどのワークショップの原則化等の文章を踏まえて、これが重要なので、これをちゃんと提言しますということで締めるという形として文章を作っております。

まず、大きい変更点、修正点は以上となります。

できるだけ議事録をお早めにお渡しいただいて、議事録等も踏まえながらある程度盛り込んだつもりではおりますが、漏れている点、あともう少し表現等の修正、それから中村委員からもコメントいただきましたように、いろいろと御提案あると思いますので、御意見いただければと思います。

私からは以上です。

◎日向委員長 ありがとうございます。本日この提言（案）の最終確認をしまして、提言を固める運びとなりますが、本日いただく御意見や誤字脱字の修正など細かい体裁等を含めて、提言（案）の最終調整については正副委員長に一任とすることとさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

◎日向委員長 それでは、本日の会議終了後の最終調整は、正副委員長でさせていただきます。

それでは、提言（案）につきまして御意見等がありましたらお願いいたします。

◎岡田委員 何度もファシリテーターという言葉にちょっとひっかかるというか、わかりやすくという部分で、2ページ目の（1）黒ポチ3つ目、こちらの「1グループ5～7名の参加者と、1名の」というところから始まると思うんですけど、私だったらという言い方が正しいのかちょっとわからないんですけど、私はこれは実は意味がわかりにくいというか、理解力がちょっと足りないのか、わかりにくいなと感じていて、1名のファシリテーター（議論の舞台を

設定し、何々の役割を果たす人)とかっていうふうにしていただいたほうが、私の中ではちょっとわかりやすいかなという気がしました。

◎渡邊副委員長 1名を前に持ってきたというのが問題なんですか。

◎日向委員長 いや。だから、1グループ5から7名の参加者と、1名のファシリテーターというほうがわかりやすいんじゃないかと。ファシリテーターの括弧を開いて、例えば議論の舞台を設定し、何とかの役割を果たす者とかという感じでしょうか。

◎岡田委員 そうですね。先にこの議論を入れてしまうと、これがファシリテーターというふうに思えばいいですけど、何て説明したらいいのか。

◎日向委員長 わかりづらいんですね。

◎岡田委員 ファシリテーター自体が難しい言葉なので、そのほうがわかりやすいかなというだけです。

◎日向委員長 ファシリテーターに解説、2つで括弧とか何かで解説を加えたほうがいいのかということですか。それともここにそもそもあるのがわかりづらければ、脚注というのものもあるかなと思うんですけど。

◎岡田委員 1名のファシリテーター(議論の何とかかんとかの役割を果たす人であるのか、人物)というふうにしていただくと、よりわかりやすくなるかなと。

◎渡邊副委員長 わかりました。ありがとうございます。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。よろしければ中村委員の修正意見について、多分中村委員としてのお考えもあると思うので、ここをまず御説明いただいたらと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎中村委員 委員長、副委員長が時間をかけてお作りになられたのにいちゃもんつけるみたいで申し訳ありません。

◎日向委員長 全然。どうぞ。

◎中村委員 訂正するのは短時間でできますので、御勘弁いただきたいと思います。

私、全体の趣旨としては、他者が読んだときにどう思うかというところが1つと、あとこの全般の修正・追加意見の中で私が考えましたのは、市でも頑張ってやっておられるということ盛り込んだほうがいいんじゃないかという趣旨です。実際にワークショップというのは市で導入していただいているところがありますので、最後の4ページ目の下から2行目、「提言し市でもその提案を受け入れ、ワークショップの導入に積極的に取り組みつつある」ということと、あと「幅広い領域において市民や市職員が協働の名のもと」、協働ですね、ここを入れたほうがいいんじゃないか。一緒にやりましょうということですね。そういう趣旨であります。

それからあと、5年ということでしたたき台の文章にありますけれども、実際、先ほど申しましたように、市ではワークショップというのはどんどん取り入れていただいているので、ほぼできつつあるということで、これも書かなくてもいいんじゃないかという趣旨で、2年、あるいは場合によっては、3年というふうに期限を早めたほうがよりいいんじゃないかということ

であります。そういう趣旨です。

あと、軽微な修正になりますけれども、文章の中で、1ページ目に「つながる」。これは平仮名にするのか、漢字がいいのかというのがあるんですけども、「つながる」。あるいは2ページ目の中ほど、15行目ですか、「あたらしい」というのを漢字にする。あるいはその下2行目、「はぐくむ」とか、「うまれる」とか、「つながり」とか、これは漢字にするか平仮名にするかって、平仮名にすれば優しい感じがあり、読みやすいという点はありますけれども、漢字をもうちょっと入れてもいいんじゃないか。

それからあと、2ページ目の(2)「ワークショップの内容をふまえた」、これも平仮名でなしに漢字にしたほうがいいんじゃないかというところです。

あと、3ページ目の(4)「ワークショップの原則化」の параグラフ 2つ目の上から3行目、「なじまない」、これも平仮名でいいのか、漢字のほうがいいような気がしました。

その後、4ページ目のところで、「『こが☆カフェ』に各委員」というのがありますけど、各委員となると全員が参加したようにとられかねないので、たしか2名か3名だったと思うんですが、オブザーバーや参加者として参加し、傍聴すると言うと、よそ者が入ったみたいにとられるところもありますので、実際に参加した委員もいるわけですから、「参加し」といたしました。そんなところです。

以上です。

◎日向委員長 ありがとうございます。

◎渡邊副委員長 1点だけ。2名の委員がオブザーバーや参加者ということで、中村委員あのおとき参加されていらっしやいましたね。

◎中村委員 傍聴でなしに参加しました。

◎渡邊副委員長 なので、多分委員長と私がオブザーバーで傍聴させていただいたのですが、そうすると3名になる。

◎中村委員 傍聴・参加し、という。

◎渡邊副委員長 オブザーバーは入れずに？

◎日向委員長 2名の委員がオブザーバー、オブザーバーというのは……。

◎渡邊副委員長 オブザーバーってどなた。

◎日向委員長 誰のことですかね。オブザーバーや参加者となったときに、参加者は中村委員はまさに参加していて、オブザーバーというのは、そうするとどうなるんですか。

◎渡邊副委員長 傍聴者のことですか、これ。

◎日向委員長 中村委員の修正意見。

◎渡邊副委員長 多分、傍聴者ということなんですかね。

◎日向委員長 とすると、このオブザーバーというのは傍聴者になるんですか。

◎中村委員 そうですね。オブザーバーは傍聴する。3人のうち1人は参加者という。

◎渡邊副委員長 3名の委員が、これは傍聴者や参加者としてという形で修正するのが。

◎中村委員 ええ。

◎渡邊副委員長 わかりました。じゃ、その形で修正させていただきます。

◎日向委員長 まず1つ、漢字はちょっと整理しますかね。

◎渡邊副委員長 むしろ委員に漢字が多くても大丈夫か。最近、学会なんかでも漢字を、学会とか論文って多くなり過ぎるので、あえてできるだけ動詞の部分は漢字にしないという方針があるんです。ただ、それをやるとなんかというところもあり、思わず漢字にしちゃったりするのですが、できるだけ外したところもあります。私はそのほうが読みやすいので、異論はないのですが、むしろ皆さんの感覚として読みやすいかどうかを言っていたければ、それに合わせて、中村委員の御意見等を踏まえて修正したいと思いますが、どうなんでしょうか。

◎日向委員長 市民参加推進会議の提言というのは、小金井市の用字用語規程みたいなものがあるんですか、例えば。それは特にないんですか。

◎事務局 あるんですが、これはあくまで審議会から出していただくものなので、大丈夫です。

◎日向委員長 そこはとらわれなくていいということですね。だから、あとはこの会議としてどうしますかということになるかと思うんですけど、もし委員の皆様方のほうで何か御意見があれば。じゃ、特になければ、必要なところはもう1回見直して漢字に修正するという、これは今やったほうがいいんですか。

◎事務局 我々のほうに中村委員から事前にファクスで漢字の部分もいただいておまして、どういたしましょう。

◎日向委員長 じゃ、そこは御一任いただいて、後ででもいいですか、それとも今確認したいですか。

◎中村委員 いいです。時間がかかると思いますから、御一任させていただいてということで。

◎日向委員長 はい、わかりました。

◎渡邊副委員長 実は表記揺れもありますので、表記揺れとかはないようにして、一般の方が読みやすいものは漢字にしてしまうという形で修正を我々のほうでさせていただければと思います。

◎日向委員長 あと、それからいただいた御意見で、「おわりに」の一番最後の3行で、年限のところは置いておきまして、「積極的な活用を図るよう提言し」の後に「市でもその提言を受け入れ、ワークショップの導入に積極的に取り組みつつある。幅広い領域において市民や市職員が協働の名のもとに地域課題を共有し、」としてはどうかという御意見でした。市としても積極的に取り組んでいるということ、この提言でも評価してはどうかという御趣旨だと承りましたが、皆様この点は特に御異論ないでしょうか。

◎岡田委員 中村委員にお伺いしたいんですけども、協働という漢字をこの字にしたのには、もちろんこの漢字がいいと思ったからですよ。3つぐらいありますよね。

◎中村委員 そうですね。「きょうどう」って、市民と行政が一緒に仕事するというのは、こ

の「協働」という字でいいと思います。

◎岡田委員 わかりました。いいと思います、すごく。ありがとうございます。

◎日向委員長 では、この点は中村委員の御意見を踏まえて加筆するという点でよろしいですか。

◎中村委員 ただ、原案の作成者の御意見もあるでしょう。

◎渡邊副委員長 いや、いい修正をいただいたと正直思っております。

◎中村委員 それと私、ちょっと申しおくれましたけども、タイトルのところに「若者の市民参加を進めるための方策について」、ここをあえて私は「促進」としたわけですね。「進める」という表現もあると思うんですけども、もう少し強い調子で、「促し進める」ということで「促進」としたわけです。そのほうがメッセージ的には伝わり方としてちょっと強いんですけども、いいんじゃないかなというところで提案させていただきました。その辺は御議論いただければと思います。

◎日向委員長 わかりました。それでは今、中村委員から御説明がありました「市民参加を進める」のところを「促進する」としてはどうかという御意見ですが、何かこの点、委員の方から御意見あればお願いいたします。

◎渡邊副委員長 私はいいと思います。そもそもこれまでの経緯の1行目に、「市ではこれまで附属機関等への市民参加を促進するため」となっていますので、ここにも合わせて、「促進」でいいと思います。

◎日向委員長 「進める」のところは「促進する」ということで。

◎中村委員 あと、それと連動して、2のこれまでの経緯の一番下の最後から2行目の「『若者の市政参加』をさらに進める」という、ここも「促進」にしたほうがいいんじゃないか。統一を持たせる。

◎日向委員長 ここはコメントございましたか。「ワークショップの原則化」のところの「この際」のくだりですけど、「質の低い」というところをとるということに、今、中村委員の御説明でコメントでありましたっけ。

◎中村委員 申しました。これは受け取り手の問題で、この文章はなくてもいいんじゃないか。ほかの人が見たときに、「うん」というふうに思うかもしれないなと思ったんです。私はこの文章を読んでそう思ったんです。この文言をとっても文脈は通じるというふうに私は解釈しています。

◎渡邊副委員長 入れた意図について御説明いたします。入れた意図は、要はこの手の行政の目標を策定したときに、とりあえず数だけ達成しようということが起きると中身がなくなってしまうので、それは避けてほしいということを踏まえて、この言葉をあえて入れました。

ただ、ここは信頼関係の話も正直言っていると思っていて、これまで皆様が見ていらっしゃる中でそこまでひどいことじゃないだろうと思われるのであれば、多分これはなくてもいいと思います。これはきっとわからないところも踏まえるのと、あとワークショップをやった

ときにつまらないと思われたら、来なくなっちゃうというのを防ぎたいということを少し意図しましたが、正直なくても文脈は全く通じますので、皆さんからあとは御意見いただいて、私はとること自体は全然反対ではありません。

◎中村委員 すみません。せっかく作っていただいて申し訳ないです。

◎渡邊副委員長 いいえ、そんなのは全く。直していただくための案ですので、御安心ください。

◎日向委員長 今の中村委員と渡邊副委員長からのコメントを踏まえて、もし何か御意見あればお願いします。

要するに質の低いワークショップを行って書くと、市に対する不信感的なものが読み取れるんじゃないかということですよ。そういうつもりで書いたわけでは決してないんですけども、誤解を招くのもよろしくないと思いますので、ここは削除ということですよ。

それで、あと残るは5年後のところなんですけど、これは2年でいいんじゃないのかということなんですけれども、ここは5と仮に置いてみたんですけれども、中村委員からは既に取り入れているから早くてもいいのではないのかという御意見だったんですね。渡邊副委員長と私で相談したときには、例えばワークショップ導入に向けた検討の場とか、研修の機会を設けるとか、それから試行的にワークショップを導入するとか、こういったことをいろいろやると、結構時間がかかるんじゃないのかと思って書こうとしていったんですけれども、もっと早くていいんじゃないかという御意見だろうと思うんです。何か事務局のほうとか、天野委員でも結構なんですけど、何かコメントがあればお願いいたします。

◎天野委員 2年と5年のお話です。まず、自分、この提言を読んで、どうやって市民全体に向けてワークショップを周知していこうかなって考えていました。

自分がかかっているところと言えば、結構ワークショップは最近やっていて、例えば公共施設等総合管理計画とか庁舎の建設とか、もともと10年前に作った4次基本構想策定の段階でもワークショップをJCさんと一緒にやったりとか、今回の5次基本構想策定において「こが☆カフェ」とか既にやっているの、そういったものをどういうふうにはほかの計画策定のほうに広げたらいいのかなというのがちょっと、無理に上からやりなさいというののもちょっと趣旨と違うのかなと思っていて、一度経験してみたりとかやってみると、多分そのよさに気がついたりとかすると思うので、期間を入れていく。当然提言なので、入れるべきかなとは思いますが、2年がいいのか、5年がいいのかということも正直、今悩んでいます。

◎日向委員長 わかりました。ありがとうございます。

ここの趣旨は、市の一部の計画では既に導入されているので、そういう意味では導入を既に小金井市さんとしてはされているということになるかと思いますが、渡邊副委員長と相談させていただいたときに思ったことは、市全体として取り組んでほしいというのが委員の皆さんの御意見だと思うんです。

市全体というのは特定の部局に限ることなく、いろいろな部局で取り入れてほしいというこ

となのではないかと私としては解釈をしましたので、それは確かに天野委員がおっしゃられたように入れなさいとやってやるのではなくて、多分段階を踏む必要があるであろうと。そのときにここで案文として書かせていただいたのは、通常、行政組織においてはそういう導入するときにはどういうふうに入らしたいのかという検討の場みたいなのを例えばつくるとか、それからあと当然、市職員にもやってもらわなければならないので、研修の機会を設けるとか、そういう基本的なベーシックな検討なり、人材育成というのが必要であろうと。

それと同時に、試行という言い方がいいのかわからないんですけども、さらに同時にワークショップを幾つか試しに、特定の部局だけではなくて、市全体のどこかの部局で試行的に導入をすることで、生きた経験をそうやって積んでもらって、市全体と市の職員の方々に運営する能力を培ってもらった上で、主要な計画策定時におけるワークショップの導入を目指してはどうか。

やや解説すると、そこら辺をどういうふうに入らしようかと天野委員がおっしゃったので、副委員長と相談したたき台は、今述べたような書き方にとりあえずさせていただいているということです。

その上で、そういう準備をするんだとしたら、この数字は入れないという考え方もあるんですけども、ここはあくまでも市民の方々が委員として参画するものなので、導入目標というのは入れたほうがいいんじゃないか。ただ、それはあくまでも目指すという表現にさせていただいたので、義務ではなくて目指す目標なんだという趣旨で捉えてはどうかということで、5というふうにさせていただいて、それはただ中村委員からは、既にやられているんだから、2年後で十分じゃないかというのが御意見だったのかなと思うんですけど、どういうふうにしたらいいのかなというのは、渡邊副委員長と私の間ではそんなふうを考えてみたということです。

◎渡邊副委員長 今の中村委員からの御意見も、何となくの御趣旨もわかりますので、少し前にもこの御意見をいただいて考えたんですが、あともう一つは、まず2年ぐらいで試行的なワークショップまではちゃんとやってもらい、かつ、せつかく市民参加推進会議という協議体があるので、そこでしっかりとチェックをしていく。特に人材研修とかどうできているのかというのも大事なことです。そういうチェックを入れ、5年後には全部でやってくださいという形で、別に5でも4でもいいんですけど、ちょっと冗長になりますが、段階を切っていくって、かつこの会議体で市を監督するというか、チェックしていく形にするのもあるのかなと思っております。

また、もしかしたら試行的にワークショップをとというのは、1回ぐらいで見えちゃうので、そこに複数のと入れるのは2年で2回とか3回はできるかと思っておりますので、試行的に複数のワークショップを導入してみたいな形として、4年、5年ぐらいで全体という形で、段階を追ってくださいと。少なくとも2年で研修ぐらいまでは頑張ってくださいというところ、これはもちろん市職員全体に対するものですので、実は言うほど簡単ではないと思っているんですけど、特に新人の方、人材育成等の方針の改定等も出てきちゃいますので、そういうことはいろいろと

ぜひ考えてやってくださいというのが、やり方なのかなというのをちょっと思いました。これはどちらかという、もう少しフィービリティがあるかなと思うんですが、そのあたりは市としての実行可能性というのはどのように。年限を2年ぐらいと5年ぐらいでまず準備して、次にというのはどう思われますでしょうか。

◎天野委員 天野ですけど、今日、総務部長が欠席なので、人材育成についてはちょっと答えにくいんですけども、職員、我々のほうでワークショップのよさを実感、体感していく中で、そういうワークショップをやるということが浸透していくのかな、そういうほうがいいのかないかという思いはあります。ただ、そういうことを待っていたって進まないということは当然ありますので、研修みたいなことは研修担当にも我々のほうで言っていきたいなというふうには思います。

実現性というところで、フィービリティという質問を受けてしまったんですけども、その効果みたいなのを実感してくると、これはやったほうがいいのかということになってくると思うんです。どんなものにそれが適するの。主要な計画というふうに書いていただいているから、そういったところを考えていくんだと思うんですけども、まだ気持ちの整理がついてなくて申し訳ないですけど、ちょっとお答えにくいですね。

◎日向委員長 どうでしょうか。

◎渡邊副委員長 ほかの委員の皆様は何か。

◎日向委員長 ほかの委員の方、御意見ございませんか。ここにいる委員の皆様方の願いは、ワークショップというか、市がいろいろと物事を決めていくときに市民の意見が反映されるといいなというのは、多分みんな共通な思いだと思っていますので、そういう観点と、あとは今天野委員がおっしゃられた、市としてこれをどう受けとめようかなというところをどういうふうに最適化していくかということだと思うんですけども。

◎岡田委員 私としては、携わるであろう市職員の方お一人ずつの御意見が聞きたいんですけど、オフレコでもいいので。

◎日向委員長 休憩にしますか。じゃ、しばらく休憩とさせていただきます。

(休憩)

◎日向委員長 それでは、再開します。

現在、市民参加推進会議の提言(案)について、御議論いただいているところでございます。そこで中村委員から何点か御意見があり、残っている部分としては5年後の部分と2年後にしてはどうかという御意見でございます。この点についてどなたでもいいので、御意見あればお願いいたします。

◎渡邊副委員長 今の話を聞きますと、5年でいいのかと思います。ただし、そのかわりにこの市民参加推進会議でしっかり進捗を確認するということ、**「ワークショップの原則化」**のポチの一番最後に、こういった提言をした上で、我々の提言をぜひ見ていきたいということ、を言うという形にしておくと、市側としてもしばらく先でいいかなというところにはならなく

なると思うんです。ちょっと目も入りますし、かといってできないことを全部やってもらって変なことになるよりは、やれることを着実にやっていただいて、少しでも職員さんの経験を増やして、関心を高めて、実際にいいワークショップを行っていただくのが大事なのかなと思います。それが私の提案となります。

◎日向委員長 具体にはどの辺が。

◎渡邊副委員長 一番最後のポツです。実は最後にもうちょっと細かい文章を考えますが。

◎日向委員長 「また」のところですか。

◎渡邊副委員長 「また」の後にもう1個ポチをつけてもいいかなと。

◎日向委員長 「また」の後にポチがつくんですか。

◎渡邊副委員長 はい。で、「以上のようなワークショップの定着については、次期小金井市市民参加推進会議で進捗等を逐次確認していくことが好ましい」とか、もう少し文章は表現を変えます。

◎日向委員長 2年というのは。

◎渡邊副委員長 2年は今は1回ちょっと。

◎日向委員長 次期というふうに入れば、2つてなるわけですね。

◎渡邊副委員長 そうです。次期を入れると。

◎日向委員長 2年となるわけですね。

中村委員、いかがですか。

◎中村委員 異議ありません。事務方の御意見を尊重して。

◎日向委員長 わかりました。

それでは、表現ぶりについては渡邊副委員長と調整いたしますが、(4)「ワークショップの原則化」のところの上から2つ目の黒丸の6行目、ここは年限の議論については、天野委員からはどういうふうにやったらいいのかという御意見もありましたけれども、あくまでもここでの目的は、市のいろんな政策をつくる上でのプロセスにできるだけ市民の方に参画してもらいたいというのが委員の全体の願いでありますので、それが実現するという観点である程度年限というのをに入れて目標をつくる。ただ、その目標にとらわれるのではなくて、あくまでもそれは目指すものであって、究極は市の意思決定プロセスに市民の方ができるだけ参加していただくというのが大事なんだと。そういう観点で、ここの数字は5というふうにさせていただければと思います。

その上で、(4)の3つ目の黒ポチの下に4つ目の黒ポチを入れさせていただき、表現ぶりは、この後、渡邊副委員長とちょっと相談をさせていただきますが、以上のようなワークショップの定着については次期市民参加推進会議において確認・提出したと。逐次確認をする。

◎渡邊副委員長 進捗について確認していく。

◎日向委員長 確認していくという内容を新たに盛り込むという方向でさせていただきたいと思うんですが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

◎日向委員長 ありがとうございます。したがいまして、4ページの一番最後のところも2という御意見をいただきましたけれども、5とさせていただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。お気づきの点があれば。すみません。限られた時間で行っておりまして、表現等をもう少し変えたほうが良いところがあるかもしれませんので、御遠慮なく御発言いただければと思います。よろしいですか。

それでは、以上で次第2(2)「今期の提言に向けて」を終了いたします。提言につきましては、本日いただいた御意見を踏まえ、その方向に沿って正副委員長で最終調整の上、確定させていただきます。

次に、次第2(3)「次回推進会議の開催日について」を行います。協議のため、しばらく休憩いたします。

(休憩)

◎日向委員長 それでは、再開させていただきます。

今回は7月18日木曜日18時から開催したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎日向委員長 御異議なしと認めます。今回は7月18日木曜日18時から開催いたします。

本日の議事は全て終了いたしました。

以上で閉会いたします。

(午後8時29分閉会)